13年2月本文他

本文：

**メタボ解消目指して、踏破・登攀・徘徊（しつつ撮る）**

　明けて2013年。

あっという間にその十二分の一が過ぎ去らんとしています。

　ここ数日に限って昼の日差しには春を思わせるものがありますが、14日には東京でも8㎝の降雪があり、総じてブル寒んだひと月でした。

　先月はアルジェリアで人質事件が発生し、多くの日本人を巻き込む悲惨な結果になってしまいました。

ただただ犠牲者の皆さんにはご冥福を祈るのみですが、それだけではあまりに言葉の“重宝さ”に便乗するに似て、冷酷な悪行を受け入れざるを得なかった犠牲者にかける言葉もありません。

彼等は、その不本意な“死”と引き換えに、並みの人間には成しえない、否、携わることさえ躊躇する、灼熱の極限の場に心身をさらけ出し、あまねく全世界に熱源を供給するという、前人未到の仕事人生を完遂すると言う、彼等のみしか味わうことのできない、“人生の充足感”を共連れにして旅立ったのだろうと思います。

私の友人の一人も同じ会社に就職して海外プラントに出向いていたのでしょうか？若かりし頃の同窓会で聞く噂は、何時も、「結婚もせずに元気に頑張っているようだよ・・・」。

サラリーマン入門の、たったその時点から描く人生の設計図が大いに違っていたのです。

その後会う機会に逸してはおりますが、彼我の人生の価値の落差をこの事件をきっかけに痛感しております。私も経営層の一人として仕事人生頑張って来たつもりですし、オイルショックもリーマンショックも乗り越えてきたと自負するものの、リスク回避を専ら志向してきたのは、今更、取り返しのつかない反省事項です。

　今年の私の年初の課題。一つは、山行月一、年12回の達成。

も一つは、カメラを「同行二人」の師と仰いで写真を生活に密着させることとし、リュックに重いカメラ背負っては毎日“徘徊”し続けること。

　手始めに、1月2日には一番電車で御嶽山から日の出山経由でつるつる温泉で湯あみして、白ワインと冷奴、枝豆で腹満たし、ご当地ご自慢の機関車バスの暖房は効きすぎて睡魔との二人連れ。

武蔵五日市駅からは近隣七福神の一つの大悲願寺を訪ね、余勢を駆って更に拝島駅からは拝島大師を往復して通算17㎞くらいかな？

まあ、これで無病息災今年も間違いなしなんて信じるのだから、呆れたジッチャマをお笑いくださいませんか。

　上述したように、14日にも御嶽山に雪中登山を敢行する積りで電車の人となったのですが、何せ、本格的に降りだしたのが10時頃からで、思いついて支度そこそこに、乗った電車は11：34発。御嶽駅着は昼過ぎにもなってしまうし、余りの雪で交通途絶懸念もあるので御嶽は中止することにして、西武新宿線途中駅の武蔵砂川で下りて国営昭和記念公園に行き先変更。

急に目的変わって、雪景色を撮りたい三昧。と思うと気がせくもの。

雪道を半時、速足で歩いて玉川上水口から入門したら守衛さん呆れて？曰く。「今日の客の三人目だよ」。

山支度だから、リュック、帽子、登山靴と山用雨合羽は大正解。しかし、ザックカバーも必須だったことを反省。

日本庭園を中心に、濡れるのも忘れてシャッターを切りまくる。ここの庭園では寒椿とサザンカが見頃との事でしたが、雪で隠れたのかなあ～。しかし、壮大な赤松の見事な雪吊りは降雪の中に凛とそびえて存在感を誇示し、盆栽苑のブッシュカンも見事でした。

写真初心者として、これもはじめて気付いたことなのですが、暖房した建屋の中にある盆栽を撮ろうとすると、レンズが急に曇ってしまって写真が撮れない。

“呆れた馬鹿”。メガネかけているのに何でこんなことに気付かないんだろうね。

そうそ、写真初心者が日本野鳥の会のフォト公開に応募してまぐれ当たりする話。

まあ、2月1日付だから事の真偽は現時点では判明してませんが、「日本野鳥の会」のＨＰ開いていただいて、「野鳥観察・撮影」に進み、「フォトギャラリー」に入っていただけませんか。

ヒヨドリを写した拙作が取り上げられるようです。

窓際（でも事実だからしょうがない）の、ブラインド越しに陽の射す机でまどろむ午後のひと時。「会長、鳥が！！」と呼ばれて、慌てふためきカメラ取り出し、ドアを恐る恐る開けて、飛び立つまでに震える手でたった二枚。鳥の名さえわかる筈がない。野鳥撮影専門家の愚弟にメールしたら、以下の返答。【ヒヨドリです。鳥の目に焦点、露出を合わせるようにします。光の当たり方で目元が暗くなったり、ちょっとした顔の向き加減で変わるので露出をポイント（中心）測光にして試してみるといいでしょう。他の測光とどう違うか実験してみてください。】とあった。→なんのこっちゃ？技量不足でそんなことできっこないよ！！！

ここで注釈※印。愚弟はニコンOBでこのフォトギャラリーの常連。兄弟だから致し方ないけれど、お世辞にも「良く撮れたねえ」。とか、「野鳥の会のフォト・コンにでも出してみたら」なんて言う筈がない。

だったら、自薦で出そうと決心して出してみたものなのです。

２月１日付は、出来栄え落差は兎も角、兄弟そろって掲載されることになりそうです。

話し戻して、雪中国営昭和記念公園。

同園「みんなの原っぱ」は一面の雪景色。しかも、なお降り続く白灰混濁の中に大ケヤキが一面を独り占め。ふと思い出したのがハワイオアフ島の「日立の樹」。このアメリカネムノキが盛夏版だったら、この広場の大ケヤキは厳冬版と呼んでも相応しいのではないでしょうか？

私も人っ子一人いない雪の広場を独り占めにして、シャッターを切りました。

ハーブ園で雪見しつつ思いにふけり、一人冷酒カップをぐっと干しました。これが本来の“雪見酒”なんです。

当日夕方には西武線が雪による徐行運転となりましたから、御嶽山断念は正解だったのでしょう。その見返りと言ってはなんですが、思わぬ雪中撮影体験も味わえるというオマケ付きでした。

後日談なのですが、数日後に鼻水クッション。「馬鹿と年寄りは風邪ひかない」なんて言われますが、やはり我も人の子。

一週間たっても抜けず、ついに医者通いと相成った次第です。

メタボ防止のために結構歩いており、先月は、お誘いを受けて、品川近隣の東海七福神めぐりに行ってまいりました。

日常は、選り取り見取り通勤三コース、中でも先月号で書いた辰巳森林緑道経由で落ち葉踏み踏み、降雪後は雪道を踏破しております。

お風邪など召さないよう。お元気で。

フォトギャラリー

№97-4182　国営昭和記念公園大ケヤキ

「この木なんの木　気になる木　名前も知らない木ですから・・・・」

この写真を見て、日立のCMソングを思い浮かべませんか？

差し詰め、これは“なんの木”の厳冬版です。

１月14日には降雪に武者震いして、今年二回目の御嶽山行を思い立ちましたが、出立が遅くなったのと雪害で青梅線が止まるのではないかと心配して思い留まり、途中下車して国営昭和記念公園に切り替えたのは正しく正解。

広大な雪景色の中でシャッターを切りまくってきました。

この公園には、運動（散歩かな？）と撮影を兼ねて良く行くのですが、春夏秋冬花だよりが満載されていて、樹木、草木は勿論、木の実、盆栽これまた良しで、季節感を満喫できるのですが、大いなる欠点は騒音。いつも、隣の自衛隊のヘリや飛行機が離発着してその騒がしいこと。

でも、その日だけは深深と降りやまぬ雪音のみして、かえって“古傷”が沁みたのはこの私だけでしょうか？

№97-4173　雪吊り

公園の名前もいかめしく、「国営昭和記念公園」。

東京でも雪が降るとの前提で雪吊作業をして、それに備えているのでしょうか？降らなかったら、“ただの人”。なんて考えるのは私だけかな？

国家予算をふんだんに注ぎ込んだ雪吊の風情です。

とは言え、冠雪してみると、まるで金沢兼六園雪吊りの東京版。

本家金沢は降雪地の最たる所ですから、雪吊も、一番人気の唐松は別格として、かなりの数で何百とありますが、ここの日本庭園のはこの赤松一本のみ。

池越しに見る、雪中に突出した姿は雄大で、兼六園のそれと比較しても負けず劣らず。

なんて言ったら叱られそうですね。

№96-4172

写真大判のみ

№96-4140　ゲートブリッジの写真

これは今年１月11日、一番電車で発って、有楽町線辰巳駅から速や足、東京湾岸新末広橋上で寒風に身を晒して日の出を待ち、東京ゲートブリッジと対峙し、トレーラーの振動の合間を縫って6：51に撮影したのものです。

毎朝陽は暦通りの時間に昇るのでしょうが、曇天だったり、太陽の軌跡上に雲があったり、まさか黄砂飛来ではないのでしょうがド･ヨーンとしていたりして・・・。

やっぱり、“東京には空がない”のでしょうか？

言い訳は出来の悪さに比例いたします。

今年も何回か挑戦したが、橋脚の光り輝く姿が満足に写せなかった。

先月本HPに載せたのは、昨年１月15日6：59に撮影したもので、今年もまた同じやつかなんて思われるのが怖い。

出来栄えの方は五十歩百歩ですが、ゲートブリッジの開通は昨年２月12日でしたから、去年のは当然ながら橋上に車がありません。背景も、片や羽田離陸の飛行機、片や野鳥で、趣を変えたたつもりなのですが・・・。

これも言い訳になりますね。